

## 園だより 3月

わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。  
コリントの信徒への手紙Ⅲ 3章6節

事務所の中から見ると園庭には、例年の今頃と変わらない暖かそうな陽射しが。でも、上着を羽織らず園庭に出ると「寒いっ」と首を縮めることが何度あったことか、空気の冷たい2月であったと思います。園庭の白モクレンも心なしか蕾のふくらみが遅いような気がしています。けれども、活発に動く子どもたちは冷たい空気の中、汗をかきながら遊び込んでいる姿が見られました。年度末の穏やかな日々、子どもたちが伸び伸びと自らの遊びを展開していることに、今年の保育の日々の豊かな過程を思い感謝の2月でありました。

先日入園希望の親子の方が見学にお見えになり、園庭を余すことなく使い様々な遊びをそこここで展開している子どもたちの様子をご覧になり、「ここには全学年の園児さんがいるのですか?」と尋ねられました。「はい」とお答えすると少しびっくりしながらも「良いですね」と。子どもたちが入り交じり活き活きと遊ぶ姿に共感して頂けたこと嬉しく思いました。今の時期だからこそその姿、私も一緒にしながら改めて、異年齢の子どもたちがお互いの存在を感じ、同じ環境の中それぞれの思い(ぶつかり合い、実力行使なども含め)を伝え合いながら遊んでいる様子に年度末のときの充実を感じました。まだまだ、成長過程にある子どもたち、年齢関係なく展開される遊びの中、今の時期だからこそ生まれてきている様々な課題もあります。仲間意識が強くなり、それ故に他の存在を拒む、傷つく言葉を投げかけるなどなど、まだまだ沢山考え合い続けることが大切です。保育者たちは育み過程の今を踏まえながらも、その一つひとつをしっかりと捉え、これからの成長の糧となるよう寄り添います。乾いた地面に水が余すことなく沁み込んでいくように思いが子どもたちの心に届くこと、豊かな心でお互いの存在を感じ合い、成長することを切に願いながら。2月に行われた「ピンクシャツウィーク」もその取り組みの良いときでした。

コロナ禍2年目の年度末、残すところ2週間弱となりました。かけがえのない3月の日々。様々な対応が欠かせない日々は続きますが、子どもたちにとっての平穏な日々を願い、心を尽くして共に過ごして参りたいと切に祈ります。ご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

園長 駿河 幸子